

「神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond」展示予定作品情報 草間彌生《南瓜》を特別寄託作品として公開

六甲山観光株式会社(本社:神戸市灘区 社長:妹尾昭孝)は、2026年8月29日(土)~11月29日(日)まで神戸・六甲山上を舞台とした現代アートの芸術祭「神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond」を開催します。

本芸術祭では瀬戸内海国立公園内に位置する六甲山上エリア(神戸市)の豊かな自然や眺望という魅力的な環境の中で、約60組のアーティストに作品を展開いただきます。

この度、国際的に活躍する日本を代表するアーティストの一人、草間彌生の「南瓜(かぼちゃ)シリーズ」から大型立体作品《南瓜》を作品所有者から寄託を受ける特別寄託作品として、ROKKO 森の音ミュージアム内、SIKI ガーデン～音の散策路～(以下、SIKI ガーデン)に展示することが決定しました。芸術祭の会期に先立ち、2026年3月14日(土)10:00から一般公開します。

併せて、本作品の公開を記念して「草間彌生《南瓜》お披露目会」と称し、ミュージアム内 SIKI ガーデンに展示している奈良美智作品他、計7点の野外アート作品を同日14:30より解説付きでご案内します。

今後も出展作品やアーティストの情報を随時お知らせします。

■特別寄託作品

作家名:草間彌生

作品名:南瓜

制作年:2014年

素材:ブロンズ

重量:1,200kg

サイズ:H241cm×W235cm×D235cm

公開日:2026年3月14日(土)



草間彌生《南瓜》、2014年 ©YAYOI KUSAMA

■出展決定アーティスト ※敬称略・50音順。今後も決定次第、順次お知らせします。

植田麻由、さとうりさ、さわひらき、高橋瑠璃、奈良美智、西田秀己



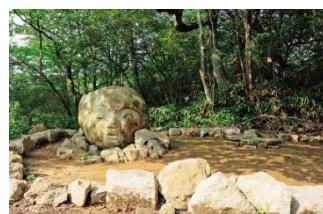
植田麻由《Daikon》



さとうりさ《こはち》



さわひらき《shadow step》撮影:高嶋清俊



高橋瑠璃《2人の秘密の間を過ごす》



奈良美智《Peace Head》
Artwork:©Yoshitomo Nara



西田秀己《fragile distance A-A', B-B', C-C' (point A point B)》
撮影:高嶋清俊

※各アーティストのプロフィールについては別紙をご覧ください。

■草間彌生《南瓜》お披露目会 概要

日 時：2026年3月14日(土)

14:30～15:00

会 場：ROKKO 森の音ミュージアム内 SIKI ガーデン

住 所：神戸市灘区六甲山町北六甲 4512-145

内 容：六甲山の厳しい冬を乗り越えて芽吹き始める草花のそばに、新しくアート作品が仲間入りします。鳥の囀りや虫の声、小川のせせらぎなどが聴こえてくる森の木々の中で、草間彌生《南瓜》とともに計7点の野外アート作品を本芸術祭総合ディレクター 山川佳乃が解説します。併せて、ROKKO 森の音ミュージアム所属ガーデナー 木村友美が SIKI ガーデンの花々をご案内します。

※ROKKO 森の音ミュージアムの営業時間は10:00～17:00(16:30チケット販売終了)です。

■神戸六甲ミーツ・アート 2026 beyond 開催概要

【会期】2026年8月29日(土)～11月29日(日)

【会場】ミュージアムエリア(ROKKO 森の音ミュージアム、六甲高山植物園、新池)、六甲ガーデンテラスエリア、自然体感展望台 六甲枝垂れ、他六甲山上各所

【主催】六甲山観光株式会社、阪神電気鉄道株式会社



作品:《Peace Head》奈良美智

【資料に関するお問い合わせ】

神戸六甲ミーツ・アート事務局

TEL: 078-891-0048 (平日10:00～17:00)



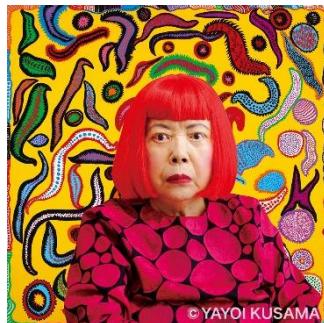
公式 Web サイト

アーティストプロフィール

くさま やよい
草間彌生

草間彌生(Yayoi Kusama)は、絵画、彫刻、インスタレーション、映像、パフォーマンス、小説など、多岐にわたるメディアを駆使しながら、「自己消滅(self-obliteration)」という芸術的信条を一貫して探求してきた、日本を代表する前衛芸術家です。

幼少期より幻視や幻聴を経験し、それらを網目模様や水玉といった反復的モチーフとして作品化するようになります。1957年に渡米後、ニューヨークのアートシーンで活動を本格化。初期のネット・ペインティング(Infinity Net)や、布製の突起物で家具や衣類を覆うソフト・スカルプチュアを皮切りに、鏡や電飾を駆使した没入型インスタレーション、裸体によるストリート・ハブニングなど、形式を越えた表現を次々に展開。60年代のポップアート、ミニマルアートといった文脈とも交錯しながら、草間は自らの身体性と内面世界を起点とする特異な実践を確立していきます。



© YAYOI KUSAMA

帰国後も創作は止まることなく、特に2009年に開始した絵画シリーズ《わが永遠の魂(My Eternal Soul)》では、12年の間に800点以上の作品を制作。鮮やかな色彩と象徴的モチーフを用いながら、自身の心象世界と宇宙的イメージを融合させるような絵画空間を築き上げました。2021年からは《毎日愛について祈っている(Every Day I Pray for Love)》と題した新シリーズに着手するなど、キャリア80年を超えてなお精力的な制作活動を続けています。

草間の作品には、没入感、内面と外界の境界の消失、存在の拡張といった体験的側面が顕著です。彼女のインスタレーション作品、特に《Infinity Mirror Room》シリーズは、世界各地の美術館で長蛇の列を生み出すほど圧倒的な支持を集めています。その詩的かつ執拗な世界観は、現代における「見ること」「在ること」の根源を問いかけています。

【略歴】

1929年 長野県松本市生まれ
1957年 単身渡米、翌年ニューヨークで活動開始
1973年 帰国後、東京を拠点に制作を継続
2016年 文化勲章受章
現在 東京在住

【主な個展】

2025年 「Yayoi Kusama: Retrospective」 バイエラー財団(バーゼル)
*巡回予定: ルートヴィヒ美術館(ケルン)、ステデリック美術館(アムステルダム)
2024年 「Yayoi Kusama: Infinite Love」 サンフランシスコ近代美術館(サンフランシスコ)
2023年 「Yayoi Kusama - You, Me and the Balloons」 Aviva Studio(マンチェスター)
2022年 「Yayoi Kusama: 1945 to Now」 M+(香港) *巡回: グッゲンハイム美術館ビルバオ、セラルヴェス財団(ポルト)
2022年 「Yayoi Kusama: My Soul Blooms Forever」 カタール・ミュージアム(ドーハ)
2021年 「KUSAMA: Cosmic Nature」 ニューヨーク植物園
2021年 「Yayoi Kusama」 グローピウス・パウ(ベルリン) *巡回: テルアビブ美術館
2017年 「Infinity Mirrors」 ハーシュホーン博物館と彫刻の庭(ワシントンDC) *巡回: シアトル美術館、ザ・ブロード(ロサンゼルス)、トロント美術館、クリーブランド美術館、ハイ美術館(アトランタ)
2017年 「Yayoi Kusama: Life Is the Heart of the Rainbow」 ナショナル・ギャラリー・シンガポール *巡回: クイーンズランド州立美術館(ブリスベン)、Museum MACAN(ジャカルタ)
2017年 「草間彌生 わが永遠の魂」 国立新美術館(東京)
2015年 「Yayoi Kusama」 ルイジアナ近代美術館(デンマーク) *巡回: ヘニー・オンスタッド・アートセンター(オスロ)、ストックホルム近代美術館、ヘルシンキ市立美術館
2011年 「Yayoi Kusama」 ソフィア王妃芸術センター(マドリード) *巡回: ポンピドゥー・センター(パリ)、テート・モダン(ロンドン)、ホワイトニー美術館(ニューヨーク)
1998年 「Love Forever: Yayoi Kusama, 1958–1968」 ロサンゼルス・カウンティ美術館、ニューヨーク近代美術館、ウォーカー・アート・センター(ミネアポリス)、東京都現代美術館
1993年 第45回ヴェネツィア・ビエンナーレ 日本館代表(ヴェネツィア)
1989年 「Yayoi Kusama」 オックスフォード現代美術館(オックスフォード)／Center for International Contemporary Arts(ニューヨーク)
1952年 草間彌生 初個展(日本、松本)

【主な所蔵先】

M+(香港)
Museum MACAN(ジャカルタ)
グッゲンハイム・アブダビ
グッゲンハイム・ビルバオ
テート(ロンドン)
ポンピドゥーセンター(パリ)
ルイジアナ近代美術館(デンマーク)
ニューヨーク近代美術館(ニューヨーク)
ナショナルギャラリー(ワシントンDC)
東京都現代美術館
他多数

うえだまゆ
植田麻由

兵庫県神戸市出身。六甲山麓に生まれ育ち、在住・制作。
2000年 大阪芸術大学大学院 芸術制作研究科造形表現IV(工芸)修了。

カラフルな色彩と有機的なフォルムによる陶の造形作品を制作し、国内外で展示発表を行っている。
主なシリーズに、心象風景を“Garden”に見立てた《A Garden of Feelings》、阪神淡路大震災の記憶を起点に石と土と共に焼成する《A Lump of Feelings》、アーティスト・イン・レジデンスを契機に展開した《Animals》《Fruits》《Homes》がある。
2006～2018年、アートNPO法人C.A.P.に参加し、クレイスタジオの立ち上げに関わる。2016年、神戸・六甲山麓に野焼きや楽焼も行える陶芸スタジオ「マユスタジオ」を設立。
六甲の風土に育まれた自然への畏敬の念が、創作の根幹にある。その感覚が、陶という素材を通じて作品へと結実している。



撮影：西澤智和(ni-moc)

さとうりさ

1972年 東京都出身
1999年 東京藝術大学大学院美術研究科デザイン専攻修了

神奈川県を拠点に活動。
抽象的でありながらも親しみを感じさせる大型のソフト・スカルプチャーを、屋内外を問わず公共のスペースに出現させ、作品を通じたコミュニケーションの可能性を考察する。
特に布地を使用した空気で膨らむオブジェ作品を精力的に制作している。油土を使った模型からの型紙制作、ミシンでの縫製、全ての工程をこなす。また各所での芸術祭では、地域住民とのワークショップを通じた共同制作なども数多い。
近年では絵本の制作、翻訳なども手掛ける。



Photo by Seiichiro SATO

さわひらき

1977年 石川県出身、ロンドン／金沢市在住
2003年 ロンドン大学 スレード校美術学部 彫刻科 修士課程修了

映像・立体・平面作品などを組み合わせ、それらにより構成された空間/時間インスタレーションを展開し、独自の世界観を表現している。自らの記憶と他者の記憶の領域を行き来する反復運動の中から、特定のモチーフに光を当て、そこにある種の普遍性をはらむ儚さや懐かしさが立ち上がってくる作品群を展開している。



たかはし るり
高橋瑠璃

1998年 東京都出身・在住
2023年 東京藝術大学 大学院 美術研究科彫刻専攻修了

生活の中で面白いと思った人間や人間の行動をモチーフに石の彫刻を作っています。
人は知らない人と出会いながら色々な事を考えながら生活をしていて、出会った知らない人達も自分と同じように色々な事を考えていると思います。
作品を見た人の、今までの思考や記憶によって、私とは違う何かを思い出してもらえると嬉しいです。



な ら よしとも
奈良美智

1959年 青森県生まれ。

1987年 愛知県立芸術大学修士課程修了。

1988年渡独、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー在籍終了。ケルン在住を経て2000年に帰国。1990年代半以降からヨーロッパ、アメリカ、日本、そしてアジアの各地で規模に関わらず様々な場所で展示発表を続ける。見つめ返すような印象的な絵画、日々自由に描き続けるドローイング作品のほか、木、FRP、陶、ブロンズ、そしてインスタレーションなど多様な素材や空間に生命を吹き込む様な彫刻作品を制作。また、制作の日々や旅先での出会いを収めた写真作品も発表している。

作品はニューヨーク近代美術館、ロサンゼルスカウンティー美術館、ボストン美術館、ナショナルギャラリー（ワシントンD.C.）大英博物館（ロンドン）など世界中の美術館に所蔵されている。



Photo: Ryoichi Kawajiri
Artwork: © Yoshitomo Nara

にしだひでみ
西田秀己

1986年 北海道出身、東京都在住

2014年 ベルゲン芸術デザイン大学芸術学部修士課程修了

北海道で建築・空間デザインを学んだのち渡欧、ノルウェー王国ベルゲン芸術デザイン大学にて美術修士を取得。建築的な手法をベースに機能的な形を引用しながら、鑑賞者の視線を周辺環境へ導き風景と人との対話を生む環境インスタレーション作品を多く手がける。その手法は既存の環境に象徴的な要素を挿入することで風景を解体し、鑑賞者自身が再びその人の新たな風景を立ち上げることを目指している。これまでポーラミュージアムアネックス展（2024年／東京）、浪漫台3線藝術季（2023年／台湾）、Time Space Existence（2021年／イタリア）、中之条ビエンナーレ（2019年／群馬県）、Unmanned 無人駅の芸術祭（2018年／静岡県）、光州ビエンナーレ（2014年／韓国）、札幌国際藝術祭（2014年／札幌）ほか多数で作品を発表。2018年から2019年にかけてポーラ美術振興財団在外研修員としてモスクワに滞在。現在は女子美術大学芸術学部准教授。



資料に関するお問い合わせ

六甲山観光株式会社／神戸六甲ミーツ・アート事務局

TEL:078-891-0048(平日 9:00～18:00)